

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100032		
法人名	有限会社 タスク		
事業所名	グループホーム かつを		
所在地	静岡県焼津市中根181		
自己評価作成日	平成24年12月6日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2295100032-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>『私たちのケア方針』を、自分達で作成し実行している。 ①自分達(自分の家族)が入居したいと思う施設を自分達の手で創り上げる。 ②常に利用者さんの思いを感じ、察し。(月1回モニタリングにてご本人の意向を確認) ③ご利用者さんが、日々安心・安全に過ごす事ができる環境整備・気付きの目を培う。 ④ご利用者さん・職員が「生き生き元気に楽しく笑って過ごせる。」よう日々取り組む。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日本一の水揚げ量を誇り、焼津市の代名詞ともいえる「かつを」を名称とし、その名前とともに地域から大切にされる事業所へと発展し、その力は組織体制の構築にも注がれています。例えば、フロア内研修は職員総意のボトムアップでつくりあげていて、「離脱時の対応をフローチャート化しよう」「誤嚥については全員がハイムリック法を習得しよう」等、意欲的な取り組みが覗えます。日々自ら省みることと職員の人心掌握が得意な管理者ならではの新たな取り組みが年々積み重なり、本年は休日職員もボランティア参加した活弁劇へと昇華し、意欲の高さとチームワークのよさを楽しみ演劇とともに利用者、家族、地域へ披露しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社長より、入社時・面接時(年1回)、設立の思い・理念について講話を受けている。理念に基づいた『ケア方針』に対して年2回自己評価を実施している。	代表者の「利用者第一」の声は職員全体に浸透していて、職場で理念にそぐわないことが起こると職員が連携して解決にあたらうとする動きもみられるとのことです。自己評価表は毎日の具体的な業務と、気遣いや意欲といった面の2枚立てで丁寧な取り組みを確認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での祭典・清掃活動へ参加。秋の神社祭典時は、場所の提供や子供さん達への地域の方々(子供さんを含む)と交流を深めている。	地域清掃を代表者が率先しておこなっているためか、野菜のおすそ分けなどが日常的にあり、地域の好感度も高いことが窺えます。秋祭りでは例年事業所に立ち寄る山車を楽しみにしていましたが、本年はメッセージカードも用意して、利用者が子どもたちに直接菓子をふるまうというふれあいも演出しました。	地域からの認知と信頼が年々深まっていますので、今後は恩返しの意味も込めて「介護教室」など地域資源となるものを事業所から提供していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居されている方のご家族に限らず、相談に応じている。又、地域・近隣の方々へ「介護の困りごとや認知症の方への介護に関する相談会等開催」のチラシ配布を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催している。地域のお年寄りの方々の状況や、施設運営・サービス・個々の活動に関しご意見を頂き、より良いサービス向上への取り組みに活かしている。	公民館で地域住民や包括、市の職員を交え、2ヶ月に1回定期開催しています。回数を重ねてきて、参加者も事業所も開催への抵抗感がなくなり、また双方の距離も縮まり、地域の寄合処のようになっていきます。意見交換が活発なため、地域資源情報が豊富に集まっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、焼津市長寿福祉課担当の方へ、随時報告・連絡し、困りごと等についてはより良い解決方法やアドバイスなど頂いている。	運営推進会議の案内、報告書を直接届けていて、毎回の参加を得ています。頻繁に顔を合わせる機会を作っているため、市の職員に親身になって相談に乗ってもらえており、円滑な関係が構築できています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしています。マニュアルを設置し定期的な研修にておいて正しく理解した上でケアを実施し、年2回の自己評価にて自らの支援方法を振り返る機会を設け取り組んでいる。	研修は年1回以上おこない、周知に努めています。スピーチロック排除の研修では、「自分がイライラしているとそれが言葉となって利用者に伝わる」との職員意見も挙がり、具体的な取り組みを書面からも視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを設置し定期的な研修において正しく学ぶ機会を設けている。施設内において見過ごす事がないよう職員間で注意を払っています。年2回自己評価にて自らのケア方法を振り返る機会も設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方が入居されています。後見人の方と支援について相談話し合いを行う機会を月1回程度設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が責任を持ち、十分な理解・納得を得られるよう説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を外部評価時実施して頂く事で、ご意見等取りまとめして頂く。又、年4回行政より相談員の方が訪問され、ご利用者さんからのご意見を伺う機会を設けて下さり結果を頂く。頂いた結果をもとに、職員間にて検討し運営に反映している。	毎月のモニタリングは家族と意見交換していて、利用者の心身の状態を中心に話し合う機会が定期的にあります。また、面会時には「なんでもおっしゃってくださいね」と家族に声掛けすることを職員に徹底させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・個人面談にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営会にて検討し職員に戻し返している。基本的には、随時聞く場を設けている。	自らの処遇改善などは直接代表者に提案できる職員もいて、オープンな体制にあることが覗えます。自己評価を年2回おこない、代表者が個人面談しています。管理者は、職員のモチベーションがよい状態にあるよう、省みたりチェックできる仕組みを整えたり、小さいうちからのガス抜きに配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業に関して、職員個々が働き易くやりがいのある職場環境となるよう、日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の情報の提供。社内研修に関しては、年間計画を作成し沿って実施している。又、職員からの現状における課題の対応方法や技術の習得の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会(交流の場)を年4回実施。 毎テーマ(課題・勉強等)を設定し、サービスの質向上を目指し取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人・ご家族と面談する事で、要望・不安な事・生活歴・生活習慣など聞き取り調査を行う事で、安心して施設生活を始められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人・ご家族と面談する事で、要望・不安な事・生活歴・生活習慣など聞き取り調査を行う事で、安心して施設生活を始められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取り調査面談にて現時点での課題や必要とする支援を見極め、ケアプランを作成し、入居に合わせ職員全員が統一した支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分だったら、逆の立場であつたら。」と立場を置き換えて、一人一人の生活や思いを大事し、共に心地よく生活を営めるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と月に一度ご利用者さんの状況や状態を報告させて頂く機会を設けている、その際ご家族の状況等教えて頂く事や今後の支援方向について相談検討を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親類の方に限らず、趣味活動で知り合った方や共に活動された方の訪問。散歩や買い物、美容院、集会又ご家族のお見舞いなどへ外出することで関係が途切れないような支援を努めている。	姉妹の入院先へ管理者が付添ったり、美容院や買い物希望にも応じていて、利用者のこれまでの関係継続が叶うように支援しています。読書の趣味を続けている人もいて、朝は新聞代読の職員を皆で囲むことが習慣となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さん同士、場面により出来る方が出来ない方へ手助けの心遣いや、支え合う気持ちを築けるよう努めている。又、思うように他者との交流や関係を築けない方には、職員が架け橋サポートを行っている。座席にも気を配っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され契約が終了された方について、状況や状態をご家族に伺い面会させて頂いたり、ご家族への相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伺える方は、日々の生活会話の中で抽出している。又ははっきりとした意向や希望を伺えない方は、日常生活の様子・会話・表情や行動など考察し意向の把握に努めている。	モニタリングシートに本人の意向欄を設けていて、意向把握が業務として定着しています。「太ったかも」「運動してみますか」「うん、だったら(今まで行ったことないけど)プールに行ってみたいな」といった会話から、職員とプールに通い始めた利用者がいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に、生活歴や既往歴・健康状態・生活スタイル・好きな物(事)嫌いな物(事)・ご家族やご兄弟との関わり・主治医等々、ご本人、ご家族より伺い把握に努めている。(アセスメント)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日状態観察(病状、排泄、食事、睡眠、表情、会話、発語、歩行など)、又ご本人の様子観察にて強さ(出来る事)等把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者を中心に主任・計画作成者間において、ご本人からの意向等も含めたモニタリングを実施。状況により、職員全員にてカンファレンスを実施し、ご家族に報告相談にて、現状に沿ったプランを作成又変更している。	担当者を中心に毎月モニタリングをおこない、家族との意見交換の時間もつくっています。モニタリングシートは家族の「満足」についての項目も設けられ、チームでプランをつくるという姿勢がみてとれました。課題点と目標が具体的で、新人職員でもわかるよう工夫があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録をタイムリーで記入。朝・夕の申し送り時に伝達し情報を共有している。状況や状態に応じては、プラン変更や統一ケア導入(変更)を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご兄弟の面会・機能訓練強化の為の外出や病院受診など、ご本人・ご家族のニーズや状況に合わせた支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者さんが暮らしていた地域資源の把握は難しいが、施設がある地域資源の情報を把握し活用に努めている。(公民館まつり・地域の祭りなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に、ご挨拶・受診同伴時には、プランを持参している。定期受診については、ご家族にお願いをしている。受診メモ(日々のバイタルや日常生活状態等)を作成し、主治医からの指示・指導・アドバイス頂き連携を図っている。緊急受診やご家族の状況により定期受診が不可能な場合は、管理者が対応している。	在宅からのかかりつけ医を替えた人もいますが、家族が受診支援しやすいことが決め手であり、事業所の協力医にかかる利用者はいません。家族にも利用者の身体の状態を把握してもらうよう努めていて、家族が難しいという場合のみ管理者が付添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気づいた事・状態をノートに記入し看護職員に伝達し、看護職員が適宜処置対応を行い、介護職員に指示・指導を行っている。緊急時又は状態に応じて、看護師から、ご家族へ連絡のち、主治医へ連絡・相談を行い適切対応・処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に出向きご本人が安心して治療を受けられるよう支援を行っている。又その際、担当医師・担当看護師・相談員の方々から状態等の情報交換を行い連携を図り、退院時、必ずカンファレンス開催をお願いし、退院後の施設生活が安心して営めるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、施設で出来る事・出来ない事(医療行為等)の説明を行っている。重度化・終末期へ状態が進行した場合に於いても、ご本人・ご家族が施設での生活を望まれる場合は、主治医・看護師・職員と相談・検討し連携を図り支援に努めている。	開設から6年を経て、2例の看取りを体験しています。初回は動揺があった職員も、二度目は落ち着いた対応となり、経験を積んで学びを深めています。緊急受診確認用紙を備え、急変時の対応ならびに重度化における家族意向など1枚にわかりやすくまとめられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変時・事故発生時の初期対応方法」について、定期的に、座学研修に加えロープルー訓練・フローチャート図にて手順の確認を行っている。 ※フローアに「急変・事故対応マニュアル」設置フローチャート図掲示		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に訓練を実施している。訓練内容については、発生が予期できない事から毎回想定を変えて実施している。避難方法についても、ご利用者さんの状態により改定している。ライフラインマニュアル・連絡網設置。毎月2回防火点検を行っている。	利用者の椅子の背もたれにはクッションも兼ねて防災頭巾が備わっています。新たな取り組みとして、メール一斉送信の連絡網の作成にも取り組んでいます。防災訓練は想定を毎回替えています。毎月避難誘導訓練をおこなっていて、利用者の状態を確認する機会にもなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修会を年1回実施している。年2回「自己評価」を実施しご利用者さんへの言葉掛けや対応の仕方などを振り返る機会を設けている。又状況により、管理者・主任が指導を行っている。	「利用者第一」にそぐわないことに管理者が気づいた場合は、すみやかにその場で改善しており、OJTが徹底しています。呼び方については、本人希望に殉じていて、事業所の方針は設けてはいません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1での会話、1対1でのゆっくりした入浴など、思いを話す・希望を伺う場面や機会をできる限り設け、伺った事・考察出来た事に関しては自己選択・決定ができるような問いかけ支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や休憩時間など、ご利用者さん一人一人の状態や状況、ペースに合わせている。訓練やレクについても、ご本人の参加意欲や思いに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面後髪のリセット、衣類については、前夜に翌日の衣類を自ら選択して頂いている。髪型などについても、ご本人の意向に沿うよう美容師の方に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を伺い献立に取り入れている。食べやすい食材や食べやすい大きさにカット等の工夫をしている。朝食の食材の買い物と一緒にしている。配膳・下膳・片付けも一緒にしている。(利用者さんの身体状態に合わせて)米ときは毎日昼・夕共利用者さんが行って下さっている。	朝は夜勤者がつくりますが、昼と夜は調理専門の職員が併設事業所の食事と一緒に手作りにしています。もやしのひげとりなど調理準備や下膳などを手伝う利用者もいます。たこ焼きやどら焼きなど、プレートをつかった参加型のおやつレクも楽しみのひとつとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量の把握と管理。(水分摂取が苦手方に対しては、1対1にて介助)塩分調整も行っている。又、昼・夕食の献立については、栄養等かたよりにくいよう十分留意し作成にあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを毎食後、実施している。(モアブラシ、口腔ケアスポンジによる残渣物除去、粘着性の唾液などの除去)義歯は、必ず義歯ブラシにてブラッシング介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン・排泄方法のアセスメントを常に行い、「おむつは最終手段」を方針している。個々の状態に合った支援方法については、排泄一連動作について、出来ている事は継続支援を行い、出来そうな事については、自立へ向けた支援を行っている。	単に定期誘導はせず、利用者の動きを察知して職員が動いています。その人に今必要な面を介助することで、自立度を高める支援をしています。また、向上した結果布パンツに替えることができる状態であっても、本人意向を重視してリハパンを継続するケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズ・定期的な排便がみられるように、個々に応じて、冷たい牛乳やオリゴ糖を毎日決まって時間に飲んで頂いている。又、腸を動かす運動を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴を実施している。入浴方法については、ご本人の意向や身体状態に合わせ、1対1にてゆっくりじっくり時間をとっている。皮膚の管理(保湿など)や浮腫みの対応としてオイルマッサージも実施している。状態状況により、入浴しているので、曜日や時間帯は固定していない。	個々人に色違いのロッカーがあり、プライバシー保護の姿勢が覗えます。週2日以上入浴をめやすとし、また身体の状態を確認してもらいたいことから、看護師の訪問のある日に合わせる工夫もあります。保湿クリームを常用していて、利用者の皮膚の潤いへと確かに反映していることを視認しました。	垢や埃だまりなど一切なく清潔な状態が保たれていますが、消耗剤や用具の置き場所を決め、整理整頓に取り組むことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時、好きな場所(居室・畳・ソファー)で休息して頂いている。個々に合わせ湯たんぽ・エアコンを利用して安眠確保に努めている。 ※主治医から、日中の休息指示を頂い場合は、時間を決め確実な休息を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服用薬の勉強会を実施(追薬・変更薬が合った場合も同様)。用法や用量については、薬表を作成し間違えないよう努め、服用後の変化など経過観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での役割をご本人の思いを伺いながら決定し継続している。楽しみや気分転換への外出についても、利用者さんからの意向により出先や目的を決定し実現の支援に努めている。又、お酒・たばこを嗜好されている方への支援も行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出希望が合った場合も、対応している。状況によっては、ご家族の協力も得て実現している。入所前からの定期外出をされていた方も、関係者の方達のご支援のもと継続している。地域の方の協力は得られていない。	初詣、花見、アイスクリームやかき氷、寿司屋めぐりなど、折々の季節を楽しむ外出支援を月1回程度取り組んでいます。散歩を日課とできる人も少なくなっており、敷地内の東屋で外気浴を浴びながらランチやお茶を楽しむことは努めておこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際はご本人所有のお財布を持参し、購入希望があった場合は、支払いの支援をしている。 管理については、ご家族の要望・トラブル回避により管理者が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡、「電話したい」「連絡したい」との要望にその場で支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔を保ち不快感を招かないよう努めている。明るさ・温度・湿度に気を配っている。聞き易い中間音のテープを流し、壁には、毎月皆で作成した時期候のカレンダーを掲示し季節を感じ味わっている。今まで作成した作品はフロアに作成し、外出時の写真は居室に掲示し、思いだしては会話を楽しんでいる。	月毎の貼り絵カレンダーが12ヶ月の大作となり、訪問者を出迎えてくれます。和紙のぼんぼりの照明や木木をふんだんに使用しており、温かみのある空間です。エアコンの空気を廻すよう段ボールで仕切りをするなど、空調への配慮も視認しました。備品をすぐに取り出せるように共用空間に置きながらも、雰囲気や損ねないよう手作りのカバーをかけるなどの工夫もみられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくり椅子に腰かけ過ごされている姿や、気の合った方達で集まって会話をしている姿やソファに座ったり、横になったりされる姿が見られる。一人でゆっくりTVを観たり、読書をされる方は、居室を活用し、その時その時の思いで居場所を変えられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや居室のテーブル・椅子・鏡台などは、ご自宅でご本人が使用されていた物を運び入れてもらっている。居室の壁には、ご家族との思いでの写真なども飾られている。自宅できつろいでいる・生活している感じで過ごせるようご家族の協力を得ながら努めている。	家族写真やテレビ、鏡台など自宅から好みのもので、なじみのものを持ち込んでいます。加齢によるADL低下に伴い、現在は全員が介護用ベッドを使用しています。右麻痺でもしたいことができるようにとのベッド用ラックや、日差しよけカーテンなど、職員の心尽くしの手作り品が目立ちます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	好きな時に、建物内を独りで移動したり、庭や東屋へ安全に移動できるようヒヤリハットの目で環境整備に努めている。車椅子で移動される方についても、見守りを行う事で、安全に気持ちが自立した生活が送れるよう努めている。		